

県内インターン 本格導入

長崎県立大学は、社会のグローバル化や情報化に対応する人材育成を主な目的に2016年度に学部学科を再編しました。知識伝達型だけでなく、学生が自ら学ぶ実践的な教育に力を入れています。将来の進路選択に向け、実際の仕事を現場で経験してもらおうと、3年次には一部の学科で県内をフィールドとする長期インターンシップを必修化。2年間の試行を経て、本年度から本格導入しました。このような学科単位での

インターンシップを必修化したのは、全国の国公立大学で初めての取り組みとなります。本年度のインターンシップは、県内企業75社、公共機関5団体の協力を得て実現しました。地場企業の社員や自治体職員の一員として最長1カ月間、業務に取り組んだ3年生はどのようなことを学び、考えたのか。4学科それぞれのインターンシップのポイントと学生の声を紹介します。
(企画・制作/長崎新聞社営業局)

経営学部 経営学科



福田 雅さん
【大村高卒】

将来は経営者の力に

佐世保市内のジェラート店でお昼時の売上を上げる方法を考えました。店長がドリア店のオーナーもしていたことから「焼かないドリア」を提案。作りやすさを重視し、ご飯にホワイトソースをかけ、ハンバーグと野菜を乗せたものを20食販売しました。宣伝ポスターでは「どんな食べ物か分からない」などお客さんからの指摘もあり、商品開発～宣伝の全行程の重要性を実感しました。公務員志望なので、将来はこのような経営者の力になりたいです。

ポイント

学科の実践科目「地域と企業演習」「地域における経営実践」では県内の道の駅や企業など地域の経営の現場で調査・分析・提案を行います。実際に職場の一員となり、従業員と会話を重ねながら課題と解決策を考えることで、実践的に学ぶことができます。



藤井 晴菜さん
【佐世保西高卒】

自ら提案する力 身に付く

佐世保市の柚木よかもん市という産地直売所で働き、そこで見つけた課題に対する解決策を考えました。客層が狭く、新規顧客開拓ができていないという現状から、隣接するジェラート店と協力した割引サービス、直売所で販売する花を使ったフラワーアレンジメント教室の開催を提案しました。私はこれまで人の意見に合わせる方が多かったのですが、今回の経験で自ら提案する力が身に付きました。就職に向けてさらにプレゼン能力を磨きたいです。



実践科目の一環で企画した千綿駅の周年記念イベント

地域創造学部 公共政策学科



矢島 彩音さん
【長崎北陽台高卒】

公務員志望 さらに強く

約1カ月間、佐世保市役所の財政課で働き、歳入歳出のデータ入力や予算決定までの流れについて学びました。たくさんの課の職員が財政課に集まり、全体の施策を決めている場面が印象的でした。普段の大学生活ではできない職員の方とのつながりもできました。その後、さらにほかの職場も見たいと思い、県内の別の町役場のインターンシップにも参加し、県内で公務員として働きたいという思いがさらに強くなりました。

ポイント

長崎県庁、佐世保市役所などの公共機関と連携して約1カ月間の就業体験を行います。公務員という華々しい仕事のイメージが先行するかもしれませんが、財政事情や人口減少など取り巻く環境は厳しい側面があり、そうした実情を現場の仕事を経験することで感じることができます。



田中 智也さん
【長崎日大高卒】

職員の言葉 心に残る

県北振興局の総務、企画振興、会計、商工労政の4つの課で働きました。企画振興課では、県北地区の道の駅や観光地めぐり、その場所の現状と課題について考えました。「与えられたことを行うだけでなく、自分が考えて取り組んだ仕事が上手くいった時にやりがいを感じる」という職員の方の言葉が心に残りました。地元である長崎県が衰退してほしくないという思いが増し、公務員試験に向けてモチベーションが高まりました。



市役所にてパスポート発行業務を行う学生(右)

地域創造学部 実践経済学科



永吉 新さん
【長崎北高卒】

就職の選択肢の一つに

第百不動産(佐世保市)で賃貸物件の案内への同行、契約書整理、セミナー用の資料作成などに携わりました。高校の職場体験とは異なり、午前8時半に出動し、朝礼に参加させてもらうなど社員の一人として接していただきました。社員の方からアドバイスを頂きながら仕事に取り組む中で、非常にアットホームな会社だと感じました。将来の夢はまだ決まっていませんが、不動産業への興味も増し、就職を考える上で選択肢の一つにしたいです。

ポイント

地域企業の即戦力となる人材育成を目指し、商工会議所と連携した約1カ月間の企業インターンシップを行います。観光、食品などの佐世保市近郊企業(今年度は47社)の中から1社を選び、地域経済の最前線をいく現場で実務を経験。地域で活躍する社会人基礎力を養成します。



吉村 有希さん
【西陵高卒】

向き不向き考える機会に

菓子の製造、販売を手掛ける九十九島グループ(佐世保市)で、試食販売、商品の補充などの業務を経験しました。スーパーでケーキを販売したり、テーマパーク内で試食販売を行う中で、一つの商品を売る大変さや、売れた時の喜びを身をもって感じました。これからの就職活動に向けて、今回課題として感じたコミュニケーション能力を向上させたいです。このインターンシップは、自分がどのような仕事に向いているのか考えるいい機会になりました。



不動産会社で学生自らが販促資料を作成

国際社会学部 国際社会学科



市河 萌紅子さん
【長崎東高卒】

働き方、も大事だと認識

JTB長崎支店で約1カ月間お世話になりました。接客や営業への同行、社員との懇談を通して得た学びは良い経験になりました。漠然と「やりたい仕事ができればいい」と考えていましたが、福利厚生なども含め「働き方」という視点も大切だと気付きました。さまざまな部署や人と連携し業務を進めることを知り、知識だけでなくコミュニケーション能力も必要だと実感しました。学生生活の中でしっかりと磨いていきたいです。

ポイント

世界との架け橋になる国際人の育成を目的に、長崎市内のテレビ局や新聞社、旅行会社などで約1カ月間のインターンシップを行います。政治や経済、歴史、文化をグローバルな視点で捉え、高いコミュニケーション能力と国際感覚の修得を目指します。



谷村 壮平さん
【長崎南山高卒】

やりがい持つ職員に刺激

長崎市原爆被爆対策部の業務を約1カ月間体験し、青少年ピースフォーラムの運営補助などに携わりました。職員の方が被爆地の行政マンとして責任感とやりがいを持って働いている姿に刺激を受け、私も自己分析を進めて打ち込める仕事を見つけたいと思いました。また、広い地域から多くの外国人が長崎原爆資料館を訪れていることを目の当たりにし、グローバルな視点を養う授業「地域研究」などでさらに学びを深めたいと感じました。



イベントで運営を補助する学生ら(左から2人目、3人目)

平成31年度入学者選抜(平成30年度実施)から学部の全入試区分において
「インターネット出願」を導入します。

詳細は
WEBで

